

第4章 計画の評価・進行管理



4-1 評価指標・目標値

(1) 数値指標・目標値の考え方

施策・取組の実施状況、目標の達成状況を確認するため、評価指標・目標値を設定します。

「評価指標」とは、目標の達成状況を適切に表現し、定量的に評価しやすくするための指標として設定するものであり、住民や交通利用者目線でわかりやすい指標を選定することが重要となります。

本計画では、各目標に対して「評価指標」を設定し、施策・取組の実施状況、目標の達成状況を把握し、評価・改善を行います。

◎ 評価指標と目標の関係

目標① 人が輝くまちづくり ～地域をつなぎ暮らしを支える公共交通

目標② 安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通

目標③ 活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通

目標④ 自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通

No	評価指標	基準値	目標値	単位	目標			
					①	②	③	④
1	鉄道（市内10駅）の利用者数	141	168	万人	○			
2	大間々・笠懸路線バスの利用者数	9,456	16,000	人	○			
3	東町路線バス（美術館線）の利用者数	4,858	9,000	人	○			
4	「電話でバス」の利用者数	20,336	28,600	人	○			
5	大間々・笠懸路線バスの利用者1人当たりの財政負担額	1,667	985	円/人	○			
6	東町路線バス（美術館線）の利用者1人当たりの財政負担額	1,883	976	円/人	○			
7	「電話でバス」の利用者1人当たりの財政負担額	3,031	2,308	円/人	○			
8	移動に困らない市民の割合（70歳以上）	73.2	81.0	%	○	○		
9	わたらせ渓谷鐵道（市内7駅）の定期外利用者数	7.2	9.5	万人			○	
10	公共交通に関するイベント・教室の参加人数	0	前年度より増加	人	○			○
11	電気バス利用によるCO ₂ の削減量	9.4	18.8	t				○

1 鉄道（市内10駅）の利用者数			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
141	168	万人	<p>現状市民1人あたり年間約29回の利用 [2025年4月時点の総人口：48,269人]</p> <p>↓</p> <p>目標市民1人あたり年間36回以上 (現状+7回)の利用 [2030年の推計値の総人口：47,127人]</p>
<p>(万人)</p> <p>180</p> <p>160</p> <p>140</p> <p>120</p> <p>2024年度 (R6年度) 2030年度 (R12年度)</p> <p>+27</p> <p>141</p> <p>168</p>			<p>算出方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内10駅の年間利用者数の合計
2 大間々・笠懸路線バスの利用者数			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
9,456	16,000	人	<p>現状市民の5人に1人しか利用していない (市民1人あたり約0.2回の利用) [2025年4月時点の総人口：48,269人]</p> <p>↓</p> <p>目標市民の3人に1人は年間1回以上の利用 [2030年の推計値の総人口：47,127人]</p>
<p>(人)</p> <p>15,000</p> <p>10,000</p> <p>5,000</p> <p>2024年度 (R6年度) 2030年度 (R12年度)</p> <p>+6,544</p> <p>9,456</p> <p>16,000</p>			<p>算出方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間利用者数
3 東町路線バス（美術館線）の利用者数			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
4,858	9,000	人	<p>現状市民の10人に1人しか利用していない (市民1人あたり約0.1回の利用) [2025年4月時点の総人口：48,269人]</p> <p>↓</p> <p>目標市民の5人に1人は年間1回以上の利用 [2030年の推計値の総人口：47,127人]</p>
<p>(人)</p> <p>10,000</p> <p>5,000</p> <p>0</p> <p>2024年度 (R6年度) 2030年度 (R12年度)</p> <p>+4,142</p> <p>4,858</p> <p>9,000</p>			<p>算出方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間利用者数

4 「電話でバス」の利用者数			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
20,336	28,600	人	<p>現状市民の3人に1人の利用 (市民1人あたり約0.4回の利用) [2025年4月時点の総人口：48,269人]</p> <p>↓</p> <p>目標市民2人に1人は年間1回以上の利用 または、現状利用者の利用回数を1.4倍にする [2030年の推計値の総人口：47,127人]</p>
<p>(人)</p> <p>30,000</p> <p>25,000</p> <p>20,000</p> <p>15,000</p> <p>+8,264</p> <p>20,336</p> <p>28,600</p> <p>2024年度 (R6年度)</p> <p>2030年度 (R12年度)</p>			
<p>算出方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間利用者数 			

5 大間々・笠懸路線バスの利用者1人当たりの財政負担額			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
1,667	985	円/人	<ul style="list-style-type: none"> 人件費・燃料費の高騰が見込まれるが、利用者増加・サービスの見直しにより財政負担額の減少を目指す
<p>(円/人)</p> <p>2,000</p> <p>1,500</p> <p>1,000</p> <p>500</p> <p>1,667</p> <p>-682</p> <p>985</p> <p>2024年度 (R6年度)</p> <p>2030年度 (R12年度)</p>			
<p>算出方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間補助額(国・県・市の補助金の合計)/利用者数 			

6 東町路線バス(美術館線)の利用者1人当たりの財政負担額			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
1,883	976	円/人	<ul style="list-style-type: none"> 人件費・燃料費の高騰が見込まれるが、利用者増加・サービスの見直しにより財政負担額の減少を目指す
<p>(円/人)</p> <p>2,000</p> <p>1,500</p> <p>1,000</p> <p>500</p> <p>1,883</p> <p>-907</p> <p>976</p> <p>2024年度 (R6年度)</p> <p>2030年度 (R12年度)</p>			
<p>算出方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間補助額(国・県・市の補助金の合計)/利用者数 			

7 「電話でバス」の利用者1人当たりの財政負担額			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
3,031	2,308	円/人	<ul style="list-style-type: none"> 人件費・燃料費の高騰が見込まれるが、利用者増加・サービスの見直しにより財政負担額の減少を目指す
(円/人) <p>2024年度 (R6年度) 3,031</p> <p>2030年度 (R12年度) 2,308</p> <p>-723</p>			
			算出方法 <ul style="list-style-type: none"> 年間補助額(国・県・市の補助金の合計)/利用者数
8 移動に困らない市民の割合(70歳以上)			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
73.2	81.0	%	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度の70歳未満の移動に困らない市民の割合(81%)と同水準まで引き上げ、市全体の移動に困らない市民の減少を目指す
(%) <p>2024年度 (R6年度) 73.2</p> <p>2030年度 (R12年度) 81.0</p> <p>+7.8</p>			
			算出方法 <ul style="list-style-type: none"> まちづくり市民アンケートで「困っていない」「あまり困っていない」を選択した割合
9 わたらせ渓谷鐵道(市内7駅)の定期外利用者数			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
7.2	9.5	万人	<ul style="list-style-type: none"> 様々な観光施策との連動により達成を目指す 過去10年で最高である2015年度(平成27年度)値を目指す
(万人) <p>2024年度 (R6年度) 7.2</p> <p>2030年度 (R12年度) 9.5</p> <p>+2.3</p>			
			算出方法 <ul style="list-style-type: none"> 市内7駅の年間定期外利用者数の合計(トロッコわたらせ渓谷号・トロッコわっしー号を含む)

10 公共交通に関するイベント・教室の参加人数			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
0	前年度より増加	人	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通への理解を深める活動を毎年実施し、興味・関心の向上により前年度より増加を目指す
(人)	<p>2024年度 (R6年度) 2030年度 (R12年度)</p>		
			算出方法 <ul style="list-style-type: none"> みどり市が関係する公共交通に関するイベント・教室の参加人数の合計

11 電気バス利用によるCO ₂ の削減量			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
9.4	18.8	t	<ul style="list-style-type: none"> No.2「大間々・笠懸路線バスの利用者数」を踏まえ、設定
(t)	<p>2024年度 (R6年度) 2030年度 (R12年度)</p>		
			算出方法 <ul style="list-style-type: none"> 1人当たりのCO₂排出量*電気バスの利用者数 1人当たりのCO₂削減量=2.32kg/ℓ (CO₂排出量原単位) *13.3km (電気バス片道運行距離) /12.3km/ℓ (一般的な自動車の燃費) ※1人当たりのCO ₂ 削減量は想定値である

4-2 計画の推進・進行管理

(1) 計画の実施主体・役割

本計画を進める上で、行政・交通事業者・利用者に加え、本市に関係する多様な関係者を交えた協働・連携により、計画目標の達成に向けて施策を実行していく必要があります。このため、それぞれの役割分担や協力体制を明確にし、進めていくことが計画の実現には必要となります。

以下に、本計画を推進するための、実施主体・役割・期待される効果を示します。

◎ 計画推進の実施主体・役割・期待される効果

役割：それぞれの主体が行うこと
効果：それぞれの主体が各役割を果たすことで得られる効果

みどり市地域公共交通活性化協議会



役割：計画に基づく事業を推進し、関係者間の調整や評価・検証を行い、市民へ情報を公開。
効果：透明性ある運営により、市民が安心して未来を共有でき、協働意識が育まれる。

行政（みどり市、桐生市、群馬県等）



役割：施策の調整役として関係者を支え、計画を着実に推進。
効果：施策が途切れず実行され、市民が暮らしやすさを実感できる地域づくりにつながる。

交通事業者（鉄道、バス、タクシー事業者等）



役割：計画に基づき公共交通サービスを提供し、関係者と連携。
効果：安全で便利な移動手段を確保し、市民や観光客の安心感と地域への愛着を高める。

利用者（市民、観光客等）



役割：公共交通を積極的に利用し、イベントに参加。
効果：一人ひとりの行動が交通体系を育て、利用者の声が改善につながる。

小学生・中学生



役割：日常的に公共交通を利用し、イベントに参加。
効果：子どもの視点が改善点を示し、「子どもに優しい交通＝誰にでも優しい交通」を実現。

高校生・大学生



役割：通学や生活で公共交通を利用し、その魅力を発信。
効果：若者の発信が交通の魅力を広げ、持続可能な利用習慣を形成する。

市民団体



役割：地域づくりや鉄道沿線の活性化活動を展開。
効果：市民主体の活動が地域の魅力を高め、公共交通への愛着を醸成する。

商業・観光関係者



役割：まちづくりと一体となった公共交通への取組を推進。
効果：公共交通と地域経済・観光が結びつき、利用者増加と地域活性化を実現。

(2) 計画の進捗管理と評価

本計画を実行し、効果を得ていくためにP D C Aサイクルにより進捗確認と評価を行います。

事業の評価にあたっては、「みどり市地域公共交通活性化協議会」において、毎年評価を実施し、その結果に応じて次年度以降の改善策の検討を行います。

計画期間最終年には、期間中のP D C Aの結果に基づいた整理を行い、次期計画へと反映します。

◎ 計画推進のスケジュール

